

「第2回熊本県産アサリブランド再生協議会」次第

日時：令和4年3月10日（木）16：10～

場所：ホテル熊本テルサ 3階 たい樹

1 開会

（1）知事挨拶

2 議事

（1）議題

- 1 第1回協議会の振り返り
- 2 アサリ産地偽装を抑止する仕組みの構築
- 3 熊本モデルの構築 ～第1ステージ（案）～
- 4 熊本モデルの構築 ～第2ステージ（案）～
- 5 産地保証された県産アサリ販売協力店認証制度（案）
- 6 ブランド力向上の取組み（案）
- 7 今後のスケジュール

（2）その他

3 閉会

第2回熊本県産アサリブランド再生協議会 出席者名簿

○委員（五十音順）

| 氏名 | 所属及び役職 |
|--------------------|---------------------------|
| いわさき ひでとし 岩崎 英敏 | 熊本県鮮魚販売組合連合会 会長 |
| うえの のぶひろ 上野 信浩 | 大海水産株式会社 鮮魚部取締役部長 |
| うえま さとし 上間 哲 | 特定非営利活動法人熊本消費者協会 会長 |
| さむら えいじ 佐村 栄治 | 株式会社鶴屋百貨店 理事（食料品部部長） |
| へんみ やすひさ 逸見 泰久 | 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授 |
| ますもと めぐみ 舩元 恵 | 熊本県漁業協同組合連合会 業務部長 |
| わたなべ えみ 渡辺 絵美 | 渡辺綜合法律事務所 弁護士 |

○オブザーバー

| 氏名 | 所属及び役職 |
|--------------------|--------------------------------------|
| うらはし まさよし 浦橋 正嘉 | 農林水産省九州農政局 消費・安全部 米穀流通・食品表示監視課 課長 |
| さかもと まさえ 坂本 正恵 | 熊本市文化市民局 市民生活部 生活安全課 副課長 |
| とうごう ただし 東郷 雅 | 熊本市農水局 水産振興センター 所長 |

○熊本県

| 所属及び役職 | 氏名 | 備考 |
|-----------------------|-------|-----|
| 知事 | 蒲島 郁夫 | |
| 副知事 | 木村 敬 | |
| 知事公室長 | 小牧 裕明 | |
| 農林水産部 部長 | 竹内 信義 | |
| 農林水産部 政策審議監 | 阪本 清貴 | |
| 農林水産部 水産局長 | 山田 雅章 | |
| 農林水産部農林水産政策課 首席審議員兼課長 | 深川 元樹 | |
| 農林水産部団体支援課 課長 | 加藤 英一 | |
| 農林水産部団体支援課 課長補佐 | 山下 武志 | |
| 農林水産部団体支援課 課長補佐 | 北口 伸一 | |
| 農林水産部流通アグリビジネス課 課長 | 中島 豪 | |
| 農林水産部流通アグリビジネス課 課長補佐 | 本岡 圭 | |
| 農林水産部流通アグリビジネス課 主幹 | 上村 浩憲 | |
| 水産研究センター 所長 | 中原 康智 | |
| 環境生活部くらしの安全推進課 課長 | 田元 雅文 | |
| 環境生活部くらしの安全推進課 主幹 | 若杉 美穂 | |
| 農林水産部水産振興課 課長 | 堀田 英一 | 事務局 |
| 農林水産部水産振興課 課長補佐 | 那須 博史 | 事務局 |
| 農林水産部水産振興課 課長補佐 | 山下 博和 | 事務局 |

第2回 熊本県産アサリブランド再生協議会 資料



緑川河口域干潟 航空写真（平成16年（2004年）頃）

令和4年（2022年）3月10日（木）

第2回 熊本県産アサリブランド再生協議会

< 内容 >

- 1 第1回協議会の振り返り
- 2 アサリ産地偽装を抑止する仕組みの構築
- 3 熊本モデルの構築 ~ 第1ステージ(案) ~
- 4 熊本モデルの構築 ~ 第2ステージ(案) ~
- 5 産地保証された県産アサリ販売協力店認証制度(案)
- 6 ブランド力向上の取組み(案)
- 7 今後のスケジュール



白川河口域干潟 航空写真
(平成16年(2004年)頃)

1 第1回協議会の振り返り

【主なご意見】

シジミのトレーサビリティシステムを応用できないか

産地偽装を防止するため、流通過程のどこが課題かを明確にし、議論を進めることが必要

輸入アサリを扱う流通業者と、県産を取り扱う業者を切り分けることが必要

アサリの流通過程で必要となる砂抜き工程において、熊本県産と他の産地のアサリが混ざらない仕組みが必要

他産地のアサリが混ざらないためには、産直のような流通が一番間違いないが、砂抜きをどこで誰がするのが課題

1 第1回協議会の振り返り...

小川原湖産大和しじみトレーサビリティシステム (<http://www.jf-ogawarako.com/shijimi/>)

(1) 目的：産地表示に対する信頼性確保、ブランド化、責任の明確化

(2) 開始時期：平成20年(2008年)4月～

(3) 参加者：生産者 選別済みシジミを漁協に全量出荷

漁協 全量を入札し買受人に出荷(事前に品質検査実施)

買受人 落札したシジミを一步川下に出荷(砂抜き梱包)

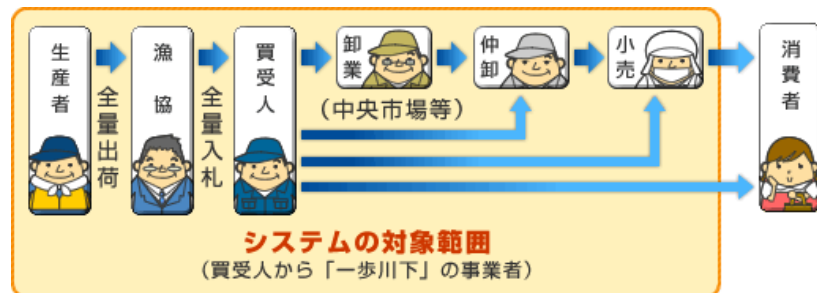
(4) 具体的な方法

漁協は水揚げ出荷情報をDBに登録し、QRコードを発行

買受人は一步川下側へQRコードを入れて出荷

出荷販売記録、QRコードの枚数と番号を記録し保管

一步川下側(仲卸、小売り、消費者)はQRコードで出荷情報取得可能



1 第1回協議会の振り返り...

(5) アサリ産地偽装を防ぐ仕組みへの応用について

水揚げ出荷情報DB登録とQRコードによる産地情報確認

消費者に産地の情報を提供するために、DBなどでの出荷情報の開示とQRコードなどの確認ツールは応用可能

出荷量に基づく規定数のQRコードシール発行

アサリは流通過程や店頭での荷姿が様々なため、同じ方法では管理が難しく別の方法の検討が必要

出荷販売記録書類の保管（買受人）

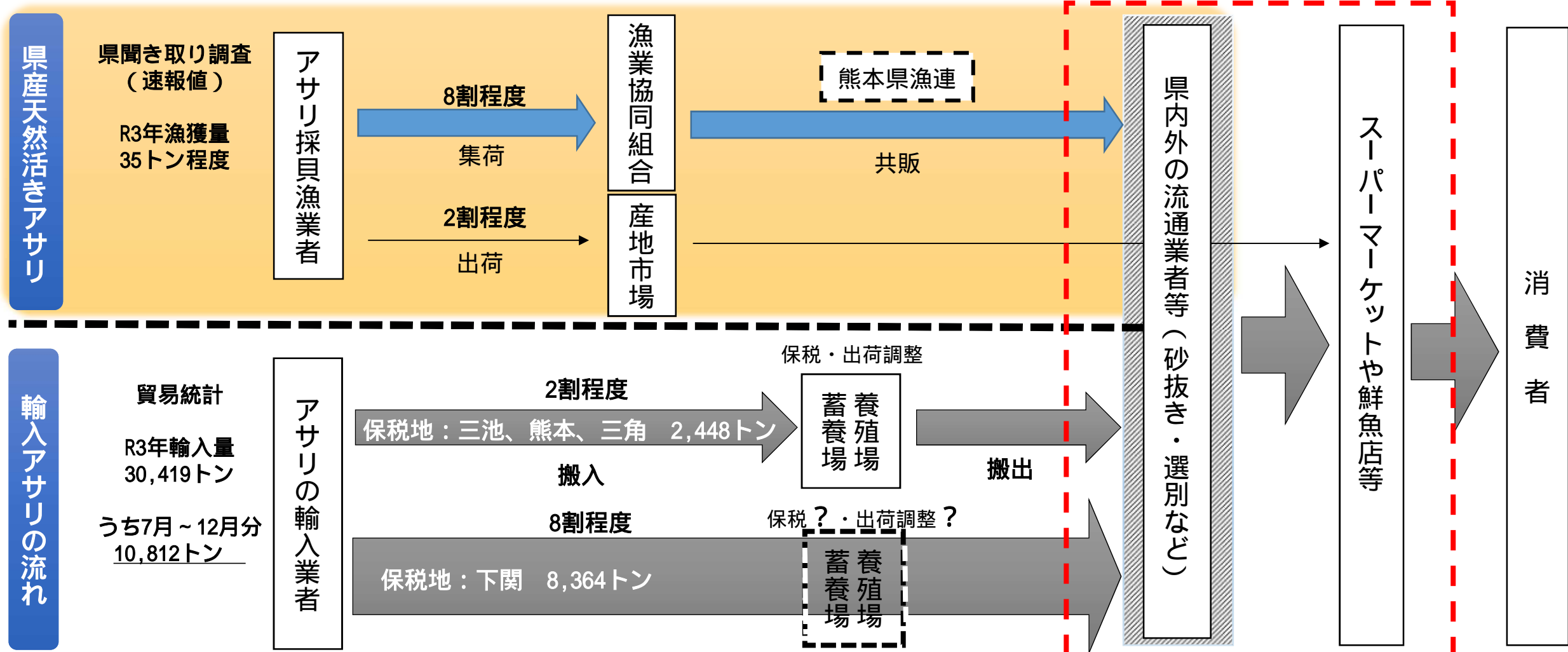
流通が多様なアサリでは、書類記録では速やかな不正情報の把握が難しく、デジタル技術を利用した仕組みが必要

1 第1回協議会の振り返り...

○砂抜き選別済みのアサリ流通を求める消費者・スーパー等のニーズにどう対応していくかが要点

【アサリ流通のイメージ】（県聞き取り調査及び財務省貿易統計を基に作成）

県産アサリと外国産アサリが同じ
場所で混在する可能性が高い箇所



2 アサリ産地偽装を抑止する仕組みの構築

～ 目指す姿：消費者が安心して購入できる熊本県産活きアサリの流通 ～

- 1 流通過程における監視体制の強化を図り、県産アサリを偽装から守る仕組み **【第1回の御意見にもある本県の最大のポイント】**

消費者・流通業者等が正確な産地情報を確認できること

Point 1 アサリ流通の見える化が必要

流通過程が把握でき、不正が防止できること

Point 2 他産地のアサリとの混入抑止対策が必要

簡易性、経済性に優れ、継続して実施可能なこと

Point 3 持続的にアサリの品質が確保できる体制が必要

- 2 産地保証された県産アサリを購入できる販売店を見える化する仕組み
県産アサリ販売協力店の認証が必要

2 アサリ産地偽装を抑止する仕組みの構築

～ 目指す姿：消費者が安心して購入できる熊本県産活きアサリの流通 ～

「熊本モデル」の段階的な構築

第1ステージ（4～5月）：『熊本モデル』の実証（モデル販売協力店との協定）

Point 1 アサリ流通の見える化

- ・ 県漁連HPで入札結果やアサリ漁獲情報の公表
- ・ 販売店における調達ルート登録
- ・ 認証した販売協力店への産地証明書の発行

Point 2 他産地アサリの混入抑止

- ・ 管理下での砂抜き・選別の実施
- ・ 入口(出荷)と出口(販売)の数量比較
- ・ 封印した荷姿での流通規格の統一
- ・ DNA検査の実施

Point 3 持続的にアサリの品質が確保できる体制整備

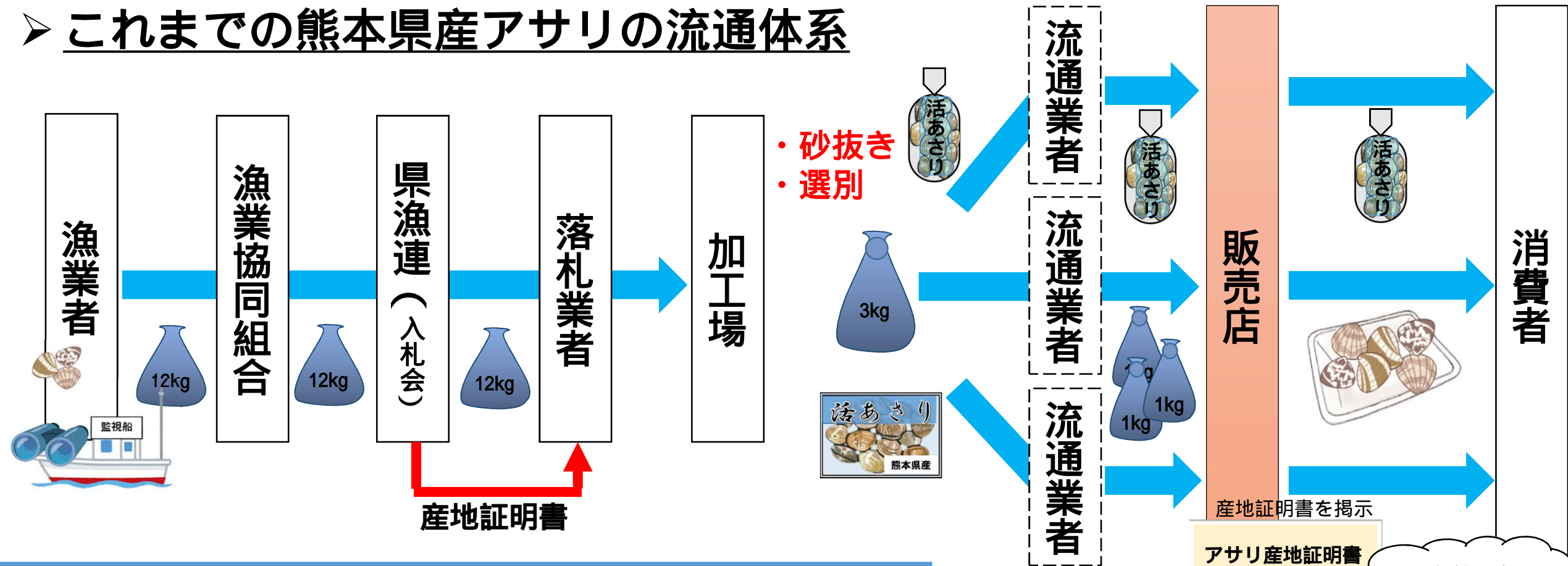
- ・ 確立した流通経路の有効活用
- ・ 認定工場による品質の統一（小売店が求める品質の確保）

第2ステージ（6月以降）：デジタル技術を活用した体制へ移行

- ・ クラウド上でのデータ管理による流通監視体制の構築
- ・ 産地証明書等の発行作業やデータ管理の省力化

3 熊本モデルの構築 ~ 現行の流通体系 ~

➤ これまでの熊本県産アサリの流通体系



・砂抜き
・選別

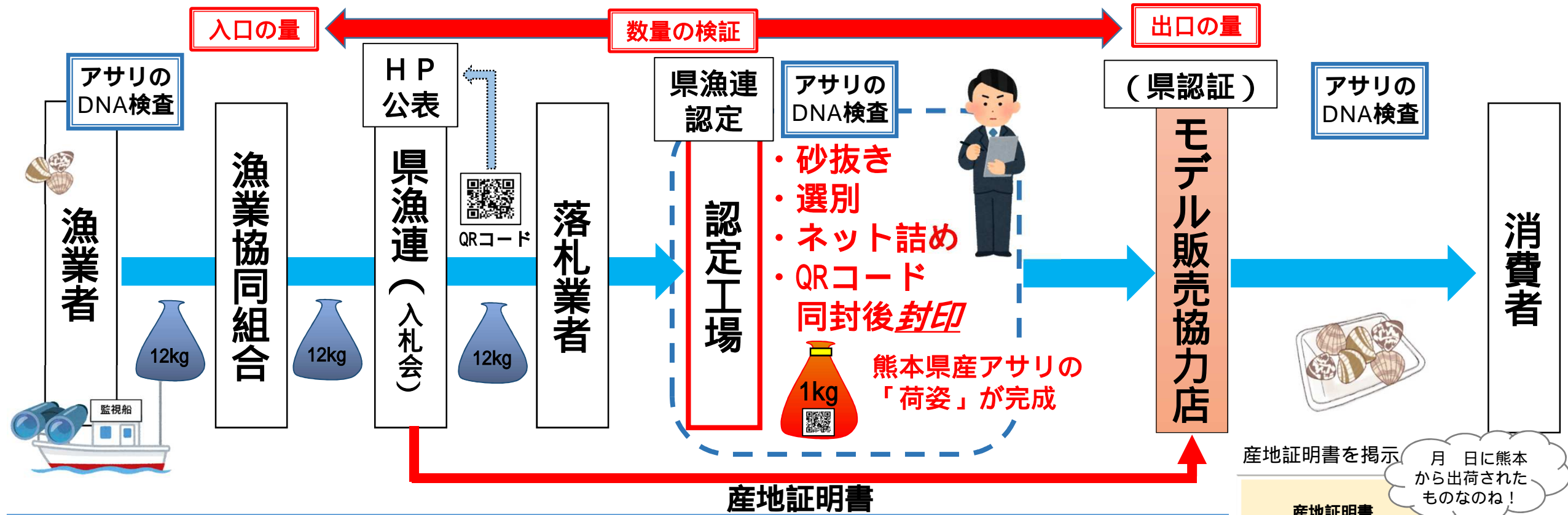
これまでの流通 (対策が不足していた点)
 入札情報が未公表
 ②加工後の荷姿が様々で、誰でも開封小分けが可能
 消費者から産地の確認ができない



アサリ産地証明書
 このアサリは熊本県産アサリであることを証明します
 OOO水産

3 熊本モデルの構築 ~ 第1ステージ (案) ~

➤ 3つのポイントに対応した、『熊本モデル』の実証



『熊本モデル 第1ステージ』の特徴 **県と県漁連が連携した監視体制の構築**
 HPで入札情報や漁獲情報の公表
 認定工場による1回限りの開封、同一規格で小売店へ
 消費者による産地の確認が可能 (県漁連が個別販売店へ産地証明書を発行)

産地証明書を掲示

月 日に熊本から出荷されたものなのね!

産地証明書

〇〇スーパー様

熊本県 漁協から、
月 日に出荷された熊本
県産アサリであることを
証明します

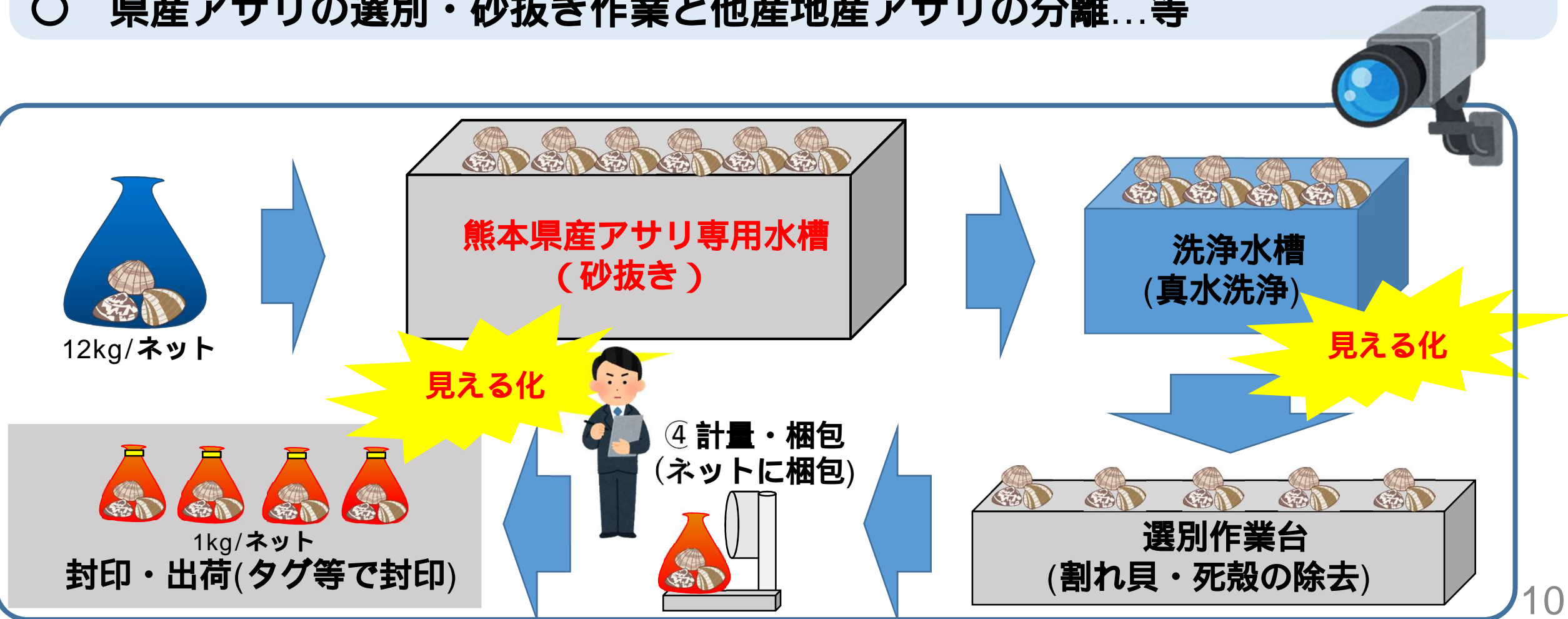
熊本県漁連
漁協

9

「認定工場」における砂抜き・選別・出荷の見える化

< 認定要件 >

- 県漁連、県による監視（常時監視、抜き打ち検査、書類確認等）
- 県産アサリの選別・砂抜き作業と他産地産アサリの分離...等



4 熊本モデルの構築 ~ 第2ステージ(案) ~

『熊本モデル 第2ステージ』の特徴

第1ステージの取組みをベースとしたデジタル化による流通監視体制の強化

② 「産地証明書」等の発行作業やデータ管理の省力化

- Point1** 県漁連は、偽装の疑いのある事業者を速やかに絞り込み
(クラウド上で不審な取引は自動で検出し、県漁連に通知)
- Point2** 流通業者は、仕入れたアサリが「熊本県産」であることをスマホ上で確認
(仕入先から送られたQRコードを読み取ると、産地情報が表示)
- Point3** 小売店は、スマホの簡単操作で産地証明書を手
(QRコードが順々につながることで、初めて産地証明書の発行が可能になる仕組み)
- Point4** 消費者は、店頭での産地証明書を見て安心して購入
(産地証明書のQRコードを読み取ると、産地情報や販売店情報を確認可能)
- Point5** 漁業者、認定工場、小売店の各段階でのDNA検査で、“熊本モデル”の信用性を補完
(輸入アサリの混入がないことを科学的に裏付け)

4 熊本モデルの構築

～ 第2ステージ (案) ～

データベース上での数量検証

入口の数量 ← 出口の数量

産地証明データベース (クラウド上のデータ) 【県漁連と県が監視】
Point1 不審な取引があった場合、入力されたデータを元に、どのようなルートで販売されたのか追跡可能



漁業者

漁協

認定工場

流通業者

販売店

消費者

- ・漁協名
- ・水揚日
- ・出荷量
- ・出荷日

QRコード発行

- ・工場名
- ・流通業者ごとの販売量
- ・販売日

流通業者ごとに枝番のついたQRコード発行

- ・業者名
- ・小売店ごとの販売量
- ・販売日

小売店ごとに枝番のついたQRコード発行

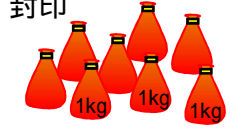
- ・店舗名
- ・仕入量
- ・仕入日

産地証明書の発行

HP公表
県漁連 (入札)

HP公表

12kg



QRコードを印刷し、送り状と共に送付

QRコードを印刷し、送り状と共に送付

QRコードを印刷し、送り状と共に送付

小売店で結束バンドを切り、パック詰め

Point5

DNA検査

Point5

DNA検査

Point5

DNA検査

EC、直販等

個人出荷の漁業者の場合、漁協が水揚量等の報告を受け、現物確認後にQRコードを発行



〇月 日に熊本から出荷されたものなのね!

Point4



()ECサイトの場合、漁協に申請する際に輸入アサリと混入するおそれがないことを証明する書類など必要

産地証明書

スーパー様

熊本県 漁協から
月 日に出荷され
た熊本県産アサリで
あることを証明しま
す

**熊本県漁連
漁協**

5 産地保証された県産アサリ販売協力店認証制度（案）

- 産地証明された県産アサリを購入できる販売店を県が「販売協力店」として認証
- 「販売協力店」には県産アサリの販促活動などの支援を県・県漁連が実施

< 認証要件 >

- 1 熊本モデルに参加し、産地証明書を店頭に掲示
- 2 調達ルートを事前登録（販売するアサリの流通経路をリスク管理の面から販売店も把握）
- 3 DNA検査へのサンプリングに協力（アサリを県に速やかに発送）
- 4 調達量の報告

< 販売協力店への支援内容（メリット） >

「販売協力店認証書」の発行
（店頭掲示で消費者の安心感へ）

販売協力店認証書

スーパー様

産地保証された熊本
県産アサリを販売す
る協力店であることを
認証します。

熊本県知事



ミニのぼりなど
県産アサリの販促資材の提供



ミニのぼり



スイングポップ（例）

認証店を対象とした
販促キャンペーンの実施



シール（例）



（例 パックに貼ってあるシールを 枚
集めると、県産水産物プレゼントなど）

6 ブランド力向上の取組み（案）

熊本県産アサリブランドの復活を目指し、販売開始に合わせ「熊本モデル」を広くPR

- 熊本モデルの流通監視システムと認証制度をPR
- 「モデル販売協力店」と県が協定を締結し、熊本モデルの実証と県産アサリの販売を促進
- 「モデル販売協力店」でのトップセールスと販売促進フェア等の開催

1 モデル販売協力店協定締結式

- ・ 協定期期 令和4年3月下旬から4月上旬
- ・ 参加者 知事、県漁連、モデル販売協力店



2 知事によるトップセールス

- ・ 開催日 令和4年4月中旬
- ・ 参加者 知事、県漁連会長、くまモン隊



3 フェアイベントの開催

- ・ 開催日 令和4年4月中旬～
- ・ 参加店舗 モデル販売協力店
- ・ 内容 熊本モデルの周知と販売促進



第1
ステージ

- ・ 開催日 令和4年6月～
- ・ 参加店舗 販売協力店
- ・ 内容 熊本モデルの周知と販売促進

第2
ステージ



（写真・画像はイメージ）

7 今後のスケジュール

○ 第3回協議会

日程：3月25日（予定）

内容：第2回協議を踏まえた流通販売の仕組みやブランド力向上の取組みの決定

令和4年（2022年）4月以降も、引続き協議会の開催を予定しています

